



# ふれあい 放水路

1998  
(平成10年)  
第57号  
12月



## 新内藤川水門完成

出雲平野を流れる新内藤川・午頭川が合流する神戸川河口近くで工事が進められていた新内藤川水門がついに完成しました。放水路事業ではこれまでに二橋の小規模な橋が完成していますが、今回完成した新内藤川水門は最初の大型構造物といえます。

平成七年七月に着手して三年四ヶ月の期間を費やし、基礎杭三七〇本、総コンクリート量約一立方メートル、鉄筋量約四〇〇トンを使用して完成したもので、ゲート三門、魚道、管理橋などを備えています。

新しい水門は、幅七三・七メートル、高さ一七・四メートルで、現在の水門の幅の約二倍の大きさがあり、神戸川からの洪水の逆流を防止するほか、潮止めの機能も併せ持っています。また、これまで車一台がやっと通れるほどの幅であった管理橋（一文橋）も広くなり、スムーズに通行できるようになります。

なお、新しい水門は上流側に設置する排水機場や周辺の堤防が完成してから運用することになります。

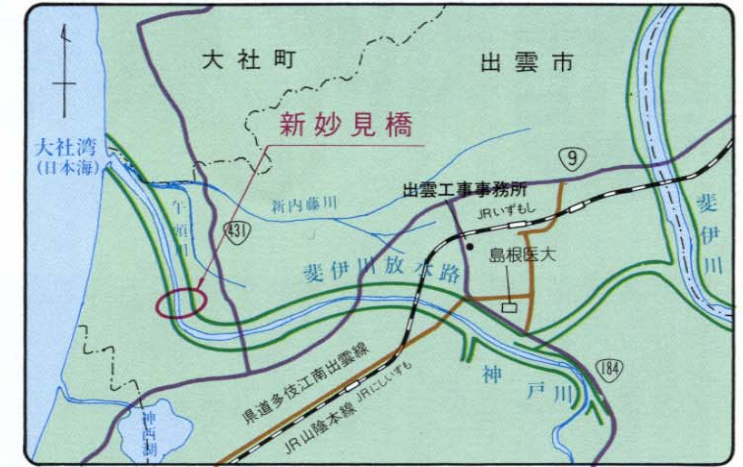
# 近代出雲と神話の世界をつなぐ橋

## —— 妙見橋改築工事の概要 ——

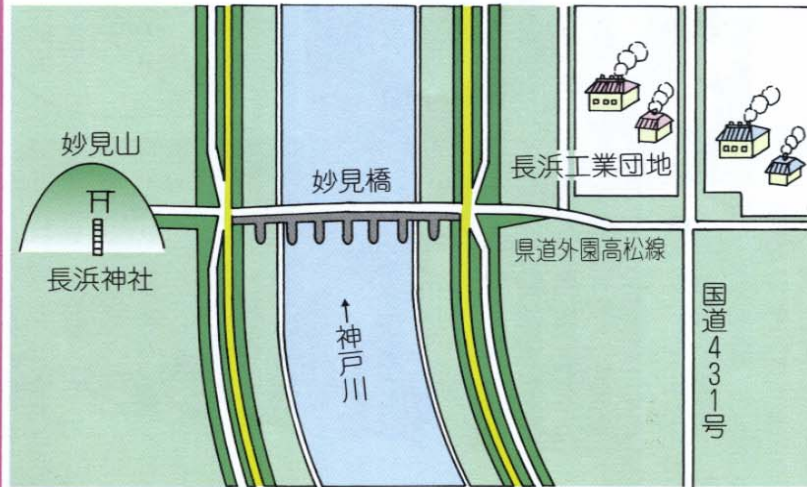
現在の妙見橋は、昭和42年、出雲市西園町に架けられた県道外園高松線の橋です。妙見橋の東側は、新しい出雲を象徴する近代的な中核工業団地となっています。また、西側に位置する小高い妙見山には「国引き神話」ゆかりの\*長浜神社があり、妙見橋はその参道の役割も担っています。しかし、現在の橋は幅が狭く大型車のすれ違いが困難なうえ、歩道もないことから決して安全で渡りやすい橋とは言えませんでした。

新しい妙見橋は、車道2車線で広い歩道も設けており、歩行者にとって優しい橋となります。完成は平成15年3月頃を予定しています。

\*『出雲国風土記』の「国引き神話」で、国引きに用いられた綱（蘭の長浜）の上に祀られ、その主人公、八束水臣津野命を祭神とする神社が長浜神社です。

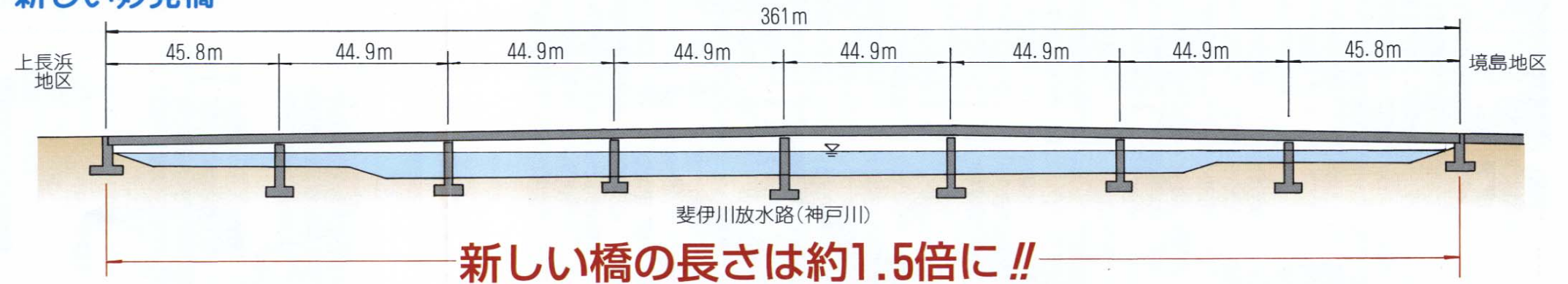


### ☆将来の妙見橋周辺のイメージ

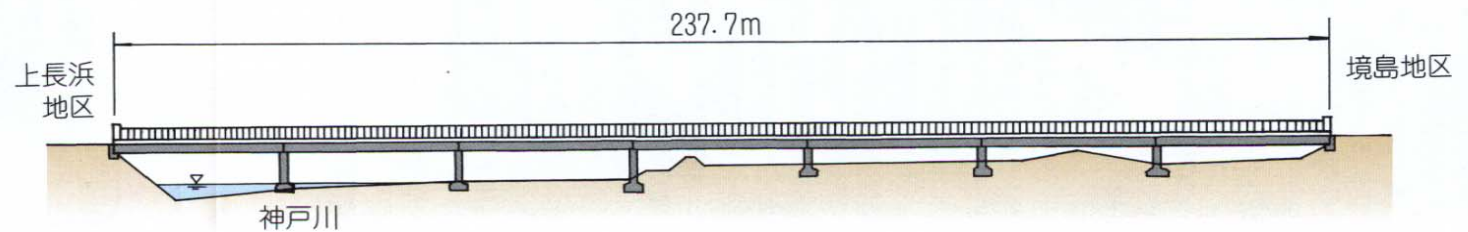


新しい妙見橋は現在の橋の下流部へ設置し、国道431号と外園を結ぶ幹線道路となります。

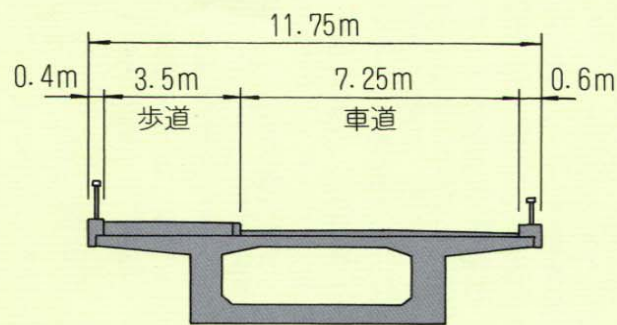
### 新しい妙見橋



### 現在の妙見橋

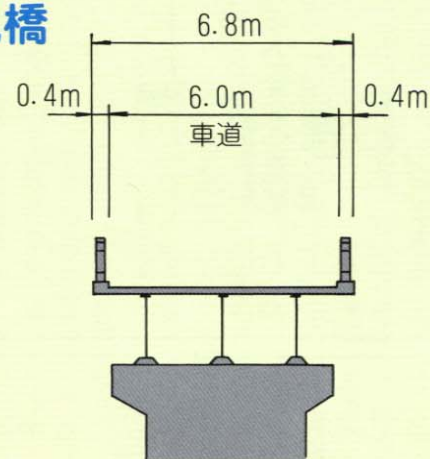


### 新しい妙見橋



橋の幅は約1.7倍に!!

### 現在の妙見橋



新しい妙見橋は下流から3番目の橋になります。

### 新しい妙見橋のイメージ図



※実際の橋はイメージとことなることがあります。

ふれあい  
放水路  
通信

新内藤川水門竣工式

十一月十八日の「土木の日」に合わせ、新内藤川水門の竣工式を開催しました。当初は水門がある現地で開催する予定でしたが、おりからの冬型の気圧配置に伴う強風のため、急きよ出雲市西部体育館で島根県、出雲市、大社町、地元関係者の方々一〇〇名の出席のもと盛大に執り行いました。

来賓の方々の祝辞や水門完成までの工事説明の後、代表の方々によりゲートの作動スイッチが押されると、無線中継でモニターに映し出された新内藤川水門のゲートがゆっくりと動き出しました。



神戸川と女性・その願い

〜第三回 神戸川サミット〜

十一月二十六日、古志公民館で神戸川流域の八地区（乙立、朝山、塩冶、古志、高松、神門、神西、長浜）の方、約二二〇名の参加のもと、『神戸川と女性・その願い』をテーマに「第三回 神戸川サミット」が開催されました。

今回の発表者は全員女性で、家庭排水などの環境問題や子供たちの安全面など、主婦や母親の立場で見た、より生活に密着した「川」に対する意見・希望が聞かれました。また、発表者の中には、このサミットを機会に源流へ行ったり沿川を見たりして、実際に川を見て触れた思いを述べられた方もいらっしゃいました。



「境港市議会」

放水路などを視察

十一月二十七日に『境港市議会 中海問題調査特別委員会研修会』の視察があり、工事が進む斐伊川放水路や志津見ダムの現地を見ていただきました。



▲斐伊川分流点(出雲市大津町来原)にて

広報室の愛称募集

新しい監督官詰所にできる広報室の愛称を募集します。採用された方には記念品を進呈いたします。

〆切り：平成11年1月末日

宛先：〒693-0023

出雲市塩冶有原町5-1

建設省出雲工事事務所

「ふれあい放水路担当」まで



建設省中国地方建設局  
出雲工事事務所

〒693-0023 出雲市塩冶有原町5丁目1番地  
☎(0853)21-1850

本誌に関するご意見やご要望などがございましたらお寄せください。

問い合わせ先：ふれあい放水路担当

放水路工事室 建設専門官

訂正とお詫び

本紙11月号(第56号)の(2)面記事で、新しい崎屋橋の断面図の歩道幅が0.3mとなっていました。「3m」と訂正し、お詫び申し上げます。